

令和4年度 多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 第3回 要点録

開催日時・場所	令和4年12月21日(水) 18:00~20:20 多摩市役所301会議室	
参加委員	参加委員7名 学識経験者：伊藤裕夫氏 市民委員：石坂氏、岩佐氏、柴田氏、新倉氏、西村氏、渡辺氏	
出席職員	くらしと文化部長、文化・生涯学習推進課長、文化施策担当課長、事務局2名	
主な内容	開会	資料の確認
	次第1	前回の振り返り
	次第2	(仮称)多摩市文化芸術将来ビジョンの柱・街・市民について
	次第3	アンケートについて
	次第4	ワークショップについて
	次第5	第4回委員会について
議題	主な意見(●事務局、◎委員長、○委員)	
次第1 前回の振り返り	①前回の要点録について確認。1件修正あり。修正することを前提に委員会として承認した。 ②前回委員会の内容の振り返り	
次第2 (仮称)多摩市文化 芸術将来ビジョンの 柱・街・市民につ いて	<p>●資料13ワークシートその2を説明</p> <p>○資料のカテゴリのフォントの大きさが違う。意味があるのか。</p> <p>●意味があって大きさを変えたわけではない。揃えるよう修正する。</p> <p>○交流・つながりの中に医療機関とあるが、医療機関の文化芸術とはどういうことを意味するのか。</p> <p>○ホスピスでは患者のベッドサイドで楽器演奏を行い、病院のロビーでは演奏会を行うといった取り組みを実施している施設がいくつかあり、そういったことを意味している。</p> <p>○医療機関だけでなく、介護の現場も音楽と親和性があるため、医療・介護とした方が良いのではないか。さらには、もっと広げて福祉と表現することもできるのではないか。</p> <p>○ヨーロッパの一部の国では、病院に学芸員がいる所がある。アートを学んだ学芸員が病院内の装飾を担当し、時に演奏会や作品展を行い、患者にとって良い環境を整えている。</p> <p>○医療機関だけでなく、介護を入れるのであれば、保育園・学校・病院・介護福祉施設など具体的に表現した方が、イメージが湧きやすい。</p> <p>○将来ビジョンであるため、対象とする範囲は広い方が良い。計画で対象をもっと具体的にしていくので、ワークシート上では様々な具体例を挙げておくと、計画時に絞りやすくなる。</p> <p>○文化芸術は生きるため、人と生き合うため、生き延びるためにある。将来ビジョンはもっと全体的に泥臭い表現で良い。趣味や好きなことに没頭することで心の拠り所になり、日常で様々なことがあっても生きていける、人と人が繋がっていけるなど、文化芸術がもつ価値や根底的な部分を表現した</p>	

次第2
（仮称）多摩市文化芸術将来ビジョンの柱・街・市民について

い。

文化芸術がないと人は生きていけない。どんな分野であっても文化芸術的なアプローチがあり、文化芸術が活性化することで、どんな世の中であっても乗り越えていけることを伝えたい。

○絵を描くことによって、その作品を人に見てもらい喜びを感じ元気になる人もいる。また、ひきこもりだった人が自宅で絵を描くことで、展覧会に足を運ぶようになり、人と人の繋がりができたという事例を知っている。文化芸術は「豊かさ」では収まりきれない力がある。

○「ラーゲリより愛を込めて」という映画が上映されており、内容はシベリアの強制収容所で起こった実話を基にしたものである。強制収容され過酷な状況の中、日本人の一人が俳句を作る会を始める。また、ハーモニカを吹いて励まし合う。日本に帰ってきてから何十年も交流を行うことに繋がる。

将来ビジョンにある「親しむ」という表現よりは、「文化芸術は生きるために必要な営み」といった表現の方が良いのではないかと。

○文化芸術は、大災害などの混乱した状況下で、人々が生きがいをもって生きていくために必要なものである。東日本大震災や阪神・淡路大震災の時も文化芸術の大切さが言われた。しかし、時間が経つと皆がそれを忘れてしまう。

◎資料13ではカテゴリ分けされているが、この分け方について意見はあるか。

○将来ビジョンの柱・街の姿・市民の姿は最終的にいつまでに固めるのか。

◎街と市民の姿という表現で将来ビジョンにするのではなく、計画の前段として方向性を定めていくために、今の時点でこういった整理を行っている。

自治体によって様々なまとめ方をしているが、多摩市は多摩市らしい将来ビジョンを白紙から考えていく。そのための材料となる意見を具体的に話し合っている。

3月以降は市民の人が見ても分かる形式にまとめていきたい。

○柱が2つあるが、同一の内容に感じる。そうであるならば、一つ目の柱は「文化芸術は生きる活力」という内容を入れた方が良いのではないかと。文化芸術は、すでに皆が持っているもので、誰かが作用させるのではなく、スイッチをオンにするような表現にした方が良いのではないかと。

資料13での文化芸術の範囲が曖昧である。どこまでの範囲を対象とするのか。たとえば、日本のアニメやゲームは世界でも認められている。芸術と判断して良いのではないかと考えているが、どうなのか。

◎特に文化は、生き方や価値観などの行動パターンとして考える人もいる。また、今は国がアニメやメディアアートを支援している。時代や人によって文化芸術の基準が異なるため、具体的に例示を出して範囲を決めることが良いのかどうかという所もある。

○あらゆる表現活動を、市民が自由にのびのびとできて、それを誰かが受け止め、増幅されて広がっていくイメージをもった。

○世間では、サッカーのワールドカップをパブリックビューイングで盛り上がって観戦しているが、これとクラシックコンサートをみんなで鑑賞するのと何が違うのかと思うことがある。そう考えると、スポーツも含まれるのか

次第2

(仮称)多摩市文化芸術将来ビジョンの柱・街・市民について

という話になり、様々な、ありとあらゆるものの表現活動を包含するという整理をした方が良いのではないか。

◎多摩市は条例で「表現活動」としており、文化芸術を幅広く捉えている。将来ビジョンの中でも上手く「表現」という言葉を活用していきたい。

●柱の「文化芸術に親しむ市民のすそ野が広がっている」は事務局が提示した内容である。この文章で伝えたい真意は「文化芸術の範囲は広いが、それに気づかず自分の気に入ったことしかしていないのではないか。それでは文化芸術は振興していかない。大事なことは、今までやったことのない文化芸術分野に一步踏み出し触れることで、新しい楽しみ方や好きなことを増やしていくことだと考えており、それを「すそ野が広がる」と表現した。決して、ピラミッド型のヒエラルキーを意図しているのではない。

◎将来ビジョンの柱は、街の姿・市民の姿や議論されている内容を集約する形でまとめていきたい。

○事務局の説明した「すそ野」の意味であるならば、市民やアマチュアの方の活動ももちろん大切だが、街の姿には、世界的・一流といった質の高い文化芸術を提供するという内容を入れた方が良いのではないか。多摩市には、一流の文化芸術をパルテノン多摩のホールで鑑賞するという身近な機会もある。

○「本物と出会う」という表現はどうか。有名でなくとも心を動かし、その人の生き方が情熱をもって伝えられている、そういう意味で「本物と出会う街」としてはどうか。

○本物は一流としての意味を込めて使ってはどうか。有名な画家が描いた本物の絵だからこそ響くものがある。ワールドカップでサッカーのにわかファンが増えたとされるが、それは一流の選手同士が本気で戦う試合だからこそ、人々が興味をもつ。すそ野が広がるとは、こういったことではないか。

○ハイアートとコミュニティアートという言葉がある。ハイアートは研鑽して高みを目指していくアートであり、コミュニティアートは一緒に行っていくことで楽しみを感じるアートで、その2つは一緒に表現できないと思っている。

◎「生きる」「本物」は重要なキーワードだと思うので、何らかの形で活かしていきたい。

次に、市民の姿にある分類や特に表現したいことについて、何か意見があるか。

○赤ちゃんという表現ではなく、乳幼児にした方が良い。

○小・中学生は一緒にしても良いが、高校生は受験があり文化芸術から離れていくイメージがあるため、対応が必要だと感じている。

○小・中学生は地元が活動範囲だが、高校生はもっと行動範囲が広がっていく。小・中学生は、保護者の判断が大きく関わる年齢だと感じる。

○小・中学生を対象に、地域の人々がコンサート等に連れて行ってくれる仕組みがあると良いのではないか。保護者が忙しくて連れて行けないという家庭もあるのではないか。

<p>次第2 （仮称）多摩市文化芸術将来ビジョンの柱・街・市民について</p>	<p>○家族で芸術鑑賞に行くとチケット料金が家族分必要になるが、子どもの分だけとなると行きやすくなる。</p> <p>○平和について考えるきっかけになるよう、原子爆弾やみんなで平和を作っていこうというテーマで12枚の紙芝居を使い、中学校で授業を行った。 生徒に実際に紙芝居を読んでもらったが、自分で声を出して読むことで戦争の苦しみや悲しみを理解することができた、という感想があった。 小学校高学年や中学生は、様々な出来事を通して、喜びや悲しみを豊かに表現できる年齢だと感じる。その時期に芸術を体験し、人としての豊かさとは何か、美しさとは何かを知っていくのではないか。 小・中学生は置かれている環境があり、関わる人も限られてくる。だからこそ、多摩市は、乳幼児からも大切だが、あらゆる人があらゆる方法で成人前の世代を文化芸術に触れる機会を提供していきたいと考えている。</p> <p>○小・中学生は自分で選ぶことができないため、保護者や先生が関わる必要がある。高校生や大学生は時間がないかもしれないが、使えるお金も増え、自分で選択することができるようになる。そう考えると、小・中学生は環境を整える必要があり、高校生以上はきっかけを与えていく対応が必要であると感ずる。</p> <p>○どんな支援を行ったとしても、重要なことは、子ども達の心を捕まえることである。学校で芸術鑑賞の授業を行っても、寝て過ごす生徒もいれば、芸術が嫌いになったとアンケートに書く生徒もいる。 文化芸術は共有できる人は仲間になるが、共有できない人は排除されがちである。それを行わないよう意識した将来ビジョンにしたい。</p> <p>○子どもたちの特性を発見し、伸ばす環境があるといい。</p> <p>◎全ての表現を記載することはできないが、まとめていく時に落とせない視点として扱っていく。</p> <p>○お互いの価値観、作品などを尊重していく姿勢が大切である。自分とは違う考えや作風だから批判や排除をするのではなく、文化という広いものの中にあることを認識し、お互いに認め合うことが必要である。</p>
<p>次第3 アンケートについて</p>	<p>●資料14アンケート（案）その2を説明</p> <p>◎アンケートは、今回で内容の議論を終え、1月20日から実施していく。アンケートは、実施側が聞きたいことを回答者に答えていくものである。記載の質問事項について、意見はあるか。</p> <p>○アンケートはどのような形でどうやって回答していくものなのか。</p> <p>●インターネットを使った回答の他、紙ベースでも地域ごとに公共施設に依頼しアンケートを置く。</p> <p>○ネットを活用するということは、誰でも回答することができるということ。属性を聞く「問2 あなたはどちらの地域にお住まいですか。」の答えが、多摩市内と多摩市外だけだが、在勤や在学、市内で文化芸術活動を行っている、いわゆる市内に縁のある人たちか、まったく縁がない人なのかどうかかわか</p>

次第3
アンケートについて

りづらい。

●多摩市みんなの文化芸術条例で市民の定義を行っているため、その視点を含め、回答者が回答に困ることのないよう改めて整理する。

○問6の情報収集方法について、新聞だけではなく、新聞・雑誌にした方が良い。購買を伴う紙媒体をまとめて記載した方が良い。

○問5の回答する数は、なぜ2つまでなのか。

○問5は回答数を縛らず、問6は主として3つくらいまでの回答で良い。

○質問事項の全てにおいて、市内か市外かを記載すると良いのではないか。

○多摩市の文化振興状況を知るためには多摩市内で触れたかどうか重要だが、日常的に文化芸術にどんな風に触れているかを聞きたいのであれば市内外は問う必要はない。私たちがこのアンケートで何を聞きたいのか決める必要がある。

○問4は、例えば映画と答えた場合、何を知ることができるか。細かく分ける必要があるのか。それより、市内または市外のどちらで文化芸術に触れたかの質問が重要だと考える。多くの人が市外で触れていることが分かれば、どうやって市内で観てもらおうかなど、次のステップに繋げることができる。

○今の時点では、一般論として文化芸術との関わりを問うので、ざっくりで良いのではないか。

○アンケートを機に問4-1の「どんな触れたかをしたのか」を聞きたいと思っている。

○問4の「触れた文化芸術」は、市内外を問わないのであれば10個に丸が付くが、多摩市だけとなると2個になる。

○問4の文化芸術に提示されているものは、ここに記載することで文化芸術が広い範囲であることを認識させる意図があると受け止めた。

○「文化芸術に触れた」とは、能動的または受動的に触れたのかがある。会場に足を運ぶような能動的触れ方、テレビで見るような受動的な触れ方があり、触れ方について定義が必要である。もし定義せず、曖昧なまま結果を知るよりは、回答が少なくなってもはっきりした結果を出す問いの方が良いのではないか。

○今回のアンケートの趣旨とは違うかもしれないが、アンケートを実施した結果、回答が少ないものをやらない、ということではなく、それこそ対策が必要であるとの視点は必要ではないか。

<p>次第3 アンケートについて</p>	<p>◎アンケートを、多摩市内での文化芸術に限定する方が良いのか、広く文化芸術にどう触れているかにする方がよいか、どちらにするのか。 多摩市内に限定する場合、アンケートの問い方を紙とネット方式でどういった聞き方にするか工夫が必要である。</p> <p>○問4の「触れた文化芸術」は、問4-1の「どんな触れたかをしたのか」を聞くために、そもそもどんな文化芸術なのかと想起させるためのものと捉えれば、現状のままで良いのではないかと。計画策定時に母数を多くしたアンケートを実施し、その際は「多摩市でどんな文化芸術に触れているか」をしっかりと聞くのが良いのではないかと。</p> <p>また、設問にある9番の「電子機器等を利用した芸術」には、ゲームという言葉をもっと具体的に記入するべきではないかと。</p> <p>◎問7～9について、項目が空いている部分や記載の設問における意見はあるか。</p> <p>○問8の追加として、「場や機会がある」「教える人がいる」などを入れた方が良いのではないかと。</p> <p>○問8の追加として、「家族で体験する場」を入れた方が良いのではないかと。家族で行くと、後ほど話に上がり、良い思い出として残っていく。</p> <p>○問8の追加として、子どもが参加しやすいワークショップを入れてはどうか。</p> <p>○小学校低学年くらいの子が保護者に引率されて職場体験を行っている所がある。文化芸術分野でもそういった体験を実施するという項目を入れてはどうか。</p> <p>○学校が関わるのではなく、地域の様々な世代の人たちが劇場などで観劇するような機会があった方がよい。学校単位だと関係性が出来上がっているが、地域の人たちで行くと子どもたちに先入観がないため伸び伸びとできる。世代が違えば価値観、感じ方が違い、新しい発見に繋がっていくのではないかと。</p> <p>○問9の「市民主体で文化芸術を振興していくために必要なことは何か」とあるが、行政にお願いしたいこと、行政が取り組むことを聞く質問はなくて良いのか。</p> <p>○問10の自由意見を聞く設問を「市へのご意見・提案」にしてはどうか。</p> <p>○問10は主語がないので、主語を示した方がよい。</p> <p>○問10のような自由記述は回答しにくい。</p> <p>○問9の追加として「人材バンク（アーティストバンク）」について入れた方が良いのではないかと。</p>
--------------------------	--

<p>次第3 アンケートについて</p>	<p>○趣味で文化芸術を行っている方が、ボランティアでこどもに教えてもらえる項目があると良いのではないかと。</p> <p>○文化芸術活動や事業について「どこに行けば申し込みできるの?」とはよく聞かれる。あらゆる情報を一度で簡単に知れるものがあると良い。</p> <p>○情報を知る、得るだけでなく、発信する場がセットであると良い。</p> <p>○市民によって違いがみられるのは、行政の広報紙、掲示板活用、後援名義である。アンケートに記載することで要望がどれくらいあるのかは判断できる。</p> <p>○市のYouTubeで活動紹介としてアップするのはどうか。</p> <p>○市民としては、市のホームページに文化芸術活動を発信するのではなく、パルテノン多摩のホームページで文化芸術の情報を一括管理し、掲載した方が分かりやすい。</p> <p>○「誰が何をするのか」まで具体的に明記すると施策の問題になり本アンケートの趣旨から外れるが、情報の一括管理に対するニーズを調べることは重要である。</p> <p>●問9-3の設問が情報の一括管理の趣旨で記載したが、文章を見直す。</p> <p>◎アンケートを実施することで施策に反映できる意見が出てくると良い。</p> <p>●問4における市内か市外かについては、問4-2を作り、「主に触れたのは市内か市外か」を入れる方向で良いか。</p> <p>◎本来はジャンルごとに市内か市外かを聞きたいところだが、答える方も作る方も大変になるため、事務局の提案で進めていく。</p>
<p>次第4 ワークショップについて</p>	<p>○ワークショップの一般募集における参加人数は何人か。</p> <p>●30人であり、1月4日から申し込みを開始し、申し込み先着順とする。申し込み期限は2月10日である。</p> <p>○委員のグループワークの関わりとして、グループ席に一緒に入らないのか。</p> <p>●委員がグループワークに入ってしまうと委員に頼ってしまい、参加者の話が活発化しない懸念をした。委員はグループに入らず、グループ発表に対し感想を述べてもらう役を考えている。</p> <p>○ファシリテーターを入れないのか。</p> <p>●ファシリテーターは入れず、リーダー・書記・発表者をグループ内で決めて進めることを想定している。</p>

	<p>○委員は司会に徹する方法と、不活性だったら促す役割のオブザーバーをやるかのどちらかが良いのではないか。主体はあくまでも参加者である。</p> <p>○足掛けに委員の関わりが必要ではあり、グループに入った方がいいのではないか。</p> <p>◎参加者に役割を担ってほしいが、委員がサポートできるよう臨機応変に考えておくこととする。</p>
次第6 第4回委員会について	日時：令和5年3月予定。後日メールにて調整する。